第11回三重県支部学術集会

学術集会会長：紀南病院組合立紀南病院院長
須崎 真

会場風景

第11回日本医療マネジメント学会三重県支部学術集会は2017年9月23日(土)に国立病院機構三重中央医療センター、研修棟会議室において開催されました。今回のメインテーマは「地域医療構想における三重の医療連携を考える」で紀南病院、須崎 真先生を学術集会会長として開催されました。当日は県内の医療機関等から73名の参加がありました。一般演題ではメインテーマに関連した地域包括ケア、退院支援や在宅医療などの演題が多く発表されました。特別講演は東北大学大学院医学研究科公共健康医学講座、医療管理学分野教授の藤森研司先生による「地域医療構想とこれからの医療連携のあり方」の講演が行われ、全国の医療圏で進められている地域医療構想の中で医療連携がどうなっていくのかを分かりやすくお話いただき参加者は興味深く聴き入っていました。最後に本会が盛会のうちに終了できましたことを、ご協力いただきました関係各位に深謝申し上げます。

第8回岩手県支部学術集会

学術集会会長：盛岡医療生活協同組合理事長　尾形文智

2017年9月30日(土)、岩手県盛岡市の岩手県医師会館において「超高齢化社会を迎え、みんなで向き合う医療・介護の倫理～もやもやを語り合い、共有しよう～」をテーマに第8回日本医療マネジメント学会岩手県支部学術集会を開催しました。

最初に東北大学大学院医学系研究科 浅井 篤教授より、「ひとりで決めない、一度で決めない。倫理問題への多職種アプローチについて」と題し、ご講演いただきました。パネルディスカッションでは、「臨床現場における倫理的課題と葛藤」をテーマに救急、透析、および緩和ケアの現場等における倫理的意思決定、葛藤について4名の方から発表いただいた後にディスカッションをおこないました。一般演題は「医療安全・感染」「地域医療・退院支援」「業務改善」「医療の質」の4セッションに23題の発表がありました。

今回の学術集会には、多職種146名の方々に参加をいただき盛況のうちに終わりました。本学術集会開催にあたりまして、ご協力いただきました関係者の皆様、各病院の皆様に心より御礼申し上げます。

第17回北海道支部学術集会

学術集会会長：JCHO北海道病院院長　古家 乾

2017年10月7日(土)、ホテルさっぽろ芸文館を会場に「過渡期の今だからこそ、原点回帰で考える医療マネジメント」をテーマに、第17回北海道支部学術集会を開催しました。

ランチョンセミナーでは、国立国際医療研究センター肝炎・免疫研究センター、肝炎情報センターの肝疾患研修室長 是永匡紹先生から「リスクマネージメントに配慮した院内肝炎ウイルス陽性者対策」をテーマにご講演いただきました。また、特別講演では、弁護士法人佐々木総合法律事務所の福田友洋先生から「裁判事例から学ぶ医療安全」をテーマにご講演をいただきました。

一般公演は、看護師、薬剤師、診療情報管理士など多職種から広く演題が集まり、5セクション25題の発表をいただきました。発表に対する質疑応答も活発に行われたため、予定していたスケジュールを若干オーバーしてしまいました。

100名を超える方の参加をいただきました。お忙しい中ご参加いただいた皆様、開催に当たってご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

分科会開催案内

2017年度医療安全分科会

テーマ ：職員の安全をまもる 患者トラブルへの対応

医療現場での暴力事件が相次いで報道され、社会的問題になっています。ある調査によると、医師・看護師の60％が「患者から暴力や暴言による被害を受けたことがある」とし、それにより「仕事への意欲が低下した」「仕事に不安を感じている」と答えています。

従来から患者による暴力や暴言(不当なクレーム)、ハラスメント等、いわゆる「院内暴力」に悩む声はある一方、医療者ゆえに「ガマン」している状況がありました。しかし、取返しのつかない事態になる前に、組織を挙げて早急に対応・防止策を講じ、「職員の安全をまもる」ことが求められます。院内暴力は、一見、医療安全の分野外のようですが、事故や患者トラブルが暴力に発展するケースも多く、医療安全管理部門が中心(窓口)となって患者・家族に対応をしたり、職員への教育を担う場合も少なくありません。

そこで今回、現場の医療安全関係者からの要望に基